

茨城県知事

大井川 和彦 様

令和 8 年度茨城県の予算 編成等に対する要望書

令和 7 年 (2025 年) 11 月 26 日

つくば市長 五十嵐 立 青

要 望 書

つくば市政につきましては、日頃から格別の御指導、御高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、当市は、令和2年(2020年)3月に、中長期的な視点に立った一貫したまちづくりを行うための道標として「つくば市未来構想」を改定するとともに、具体的な施策や取組についてまとめた「第2期つくば市戦略プラン」を策定しました。現在は、第2期戦略プランの計画期間終了に伴い、その後継として令和7年(2025年)3月に新たに策定した第3期戦略プランをもとに、引き続き、未来構想で掲げる「目指すまちの姿」や「2030年の未来像」の実現に向けた施策や取組を進めています。

現在、当市は、筑波研究学園都市として、世界や日本が直面する課題解決に向けたさまざまな取組に貢献するとともに、つくばエクスプレス沿線開発等により、人口も増加し続けています。しかし、人口は将来的には減少していくと予想されており、今後も、持続的な発展を続けるため、また、県南地域を牽引し続ける存在であるためには、東京圏からの流入を促し、茨城県からの流出を防ぐ役割として、また、子どもを生ま・育てる環境を充実させることで更なる人口拡大と、将来的な人口を維持していくために各種施策に取り組む必要があります。

つきましては、当市政の推進に必要な政策や予算に関する要望を以下のとおり取りまとめましたので、実現に向けて特段の御配慮をお願い申し上げます。

I 魅力をみんなで創るまち

1 豊かな資源をいかした観光の振興

- (1) 県道笠間・つくば線の交通渋滞を緩和するため以下のとおり要望します。
 - ① 女体山山頂直下に新たな登山道（白雲橋コースの迂回ルート）を整備し、混雑の分散や緩和を促すこと。
 - ② 笠間・つくば線において、筑波山神社～沼田区間の車道の拡幅及び歩道の整備を行い、渋滞緩和を図ること。
 - ③ 県道42号線の国松付近の電光掲示板をリアルタイムの渋滞状況を表示できるよう改修し、市と協力して適切なタイミングで渋滞情報を周知すること。
- (2) 緊急時における筑波山登山者等の安全を確保するため、筑波山頂（御幸ヶ原）へ緊急時の避難所及び休憩所機能を備えた観光客受入施設の整備を要望します。
- (3) 筑波山地域ジオパークはエリアが広域（つくば市、石岡市、笠間市、桜川市、土浦市、かすみがうら市）であることから、ジオパーク活動を積極的かつ効果的に進めるため、茨城県の筑波山地域ジオパーク推進協議会への加入を要望します。

II 誰もが自分らしく生きるまち

1 健康づくりの支援

- (1) 現在、予防接種法に基づく定期予防接種を、小児が11種類、成人・高齢者が5種類、合わせて16種類（接種回数30～37回）実施しています。令和6年度に高齢者新型コロナウイルス予防接種、令和7年度には高齢者带状疱疹予防接種が追加され、年々費用負担が増えております。予防接種の費用は、財源の確保が大きな課題となっていることから、補助制度の創設や国への働きかけ等により、確実な財源の確保がなされるよう要望します。

また、現在、母子保健法に基づく妊婦健康診査（14回）、乳児健康診査（2回）、新生児聴覚検査等を実施しています。妊婦健康診査・乳児健康診査・新生児聴覚検査等の費用についても、補助制度の創設や国への働きかけ等により、確実な財源の確保がなされるよう要望します。

- (2) 麻しん感染症対策は広域での対応が必要なことから、公平を期すためにも市町村毎の判断に委ねるものではなく、県内統一で対応できるよう、麻しん緊急予防接種補助制度の創設など補助を含めた仕組みづくりを要望します。

2 誰もが安心して暮らすことができる包括的支援の充実

精神障害者保健福祉手帳2級などの中度の障害者についても医療費助成を要望します。

3 スポーツで“つながる”まち つくばの実現

現在、県南地域において、全国的なスポーツ競技大会やプロスポーツ大会を実施できる施設は非常に限られています。県内でも多くの人口を擁する地域ながら、トップスポーツに触れる機会に乏しい状況です。より多くの県民にとって、トップスポーツが身近になり、スポーツに親しむことのできる環境を充実させるため、全国的なスポーツ競技大会等を実施可能な、県南地域の拠点となるスポーツ施設の整備を要望します。

4 文化芸術による市民生活の充実

生活を彩り豊かにする芸術文化が市民生活の一部となるよう、誰もが身近に芸術文化に触れることができ、自ら参加して創作できる機会や環境を充実させるため、茨城県近代美術館つくば分館（つくば美術館）の展示室使用料の減免について、柔軟な対応を要望します。

5 公共施設・インフラの予防保全型維持管理の強化

- (1) 国や東日本高速道路株式会社（N E X C O 東日本）に対して、首都圏中央連絡自動車道の4車線化の整備促進を働きかけるよう要望します。
- (2) 国に対して、国道6号牛久土浦バイパスの建設促進を働きかけるよう要望します。
- (3) 国道125号つくばバイパスの早期完成、つくば東バイパスの早期着工及び未決定ルート of 早期決定を要望します。
- (4) 国道354号バイパス整備及び現道の4車線化の整備促進を要望します。
- (5) 主要地方道野田牛久線のバイパス整備を含めた整備促進を要望します。
- (6) 主要地方道筑西つくば線バイパス延伸整備の早期事業化を要望します。
- (7) 都市計画道路上野花室線の未事業化区間の早期事業化を要望します。
- (8) 都市計画道路境松西平塚線と都市計画道路新都市中央通り線の立体交差化をはじめとする渋滞対策を要望します。
- (9) つくば市北部地区の東西移動をさらに円滑にするため、主要地方道つくば古河線及び主要地方道つくば千代田線の拡幅整備を要望します。
- (10) つくば市吉沼及び安食地内における一般県道赤浜谷田部線のバイパス整備を要望します。

6 利便性の高い公共交通ネットワークの形成と様々な移動サービスの提供の推進

路線バスを運行するバス事業者ではバス運転者の担い手不足が深刻であり、令和6年4月のバス運転者の改善基準告示改正も相まって県内全域でバスの減便が相次ぎました。路線バス会社では積極的に採用活動を行っているものの、未だ十分な人数を確保できておら

ず、また、バス運転士の高齢化も進行していることから、バス運転士の安定的な確保が喫緊の課題となっています。今年度、県では「バス運転士緊急確保事業」として、バス運転士の採用広報に係る経費を補助していますが、来年度以降もバス運転士の安定的な確保に向けた支援を継続することを要望します。

Ⅲ 未来をつくる人が育つまち

1 安心して生み育てられる子育て環境の充実

小児救急医療体制の確保が必要であることから、小児救急拠点病院に対し交付している「小児救急医療拠点病院運営助成費」について、増額を要望します。

2 幼児保育・保育の環境の充実

多子世帯保育料軽減事業の助成要件における所得制限を撤廃し、県内すべての市町村が、きょうだいの年齢にかかわらず、第2子の利用者負担額を半額とすることができる制度となるよう見直しを要望します。

3 一人ひとりの「学び」を大切にする教育の推進 / 「学び」の多様性に対応し個性が花開く教育の推進

(1) 当市では、つくばエクスプレス沿線地域を中心に多くの子育て世帯が転入しており、保護者・生徒双方の視点から、自宅の近接地に所在する高等学校への進学が望まれています。

また、当市の推計では、児童生徒数が2030年頃までに急増することが見込まれていますが、つくば市内の児童生徒数に対して、市内の県立高等学校の定員数は、人口が同規模の水戸市や近隣市と比較すると大幅に少ない状況です。

当市には多くの市民から市内の県立高等学校の新設や定員増を求める声が多く寄せられており、令和7年6月のつくば市議会で

は竹園高等学校の定員増の要望を含む、つくばTX沿線エリアの県立高等学校の定員増を求める意見書が提出され原案可決されました。

以上の理由から、県立高等学校への進学環境を充実させるために、市民からの要望も多い市内の竹園高等学校や近隣市の県立高等学校の定員増、当市内で一定の交通利便性のある地域への県立高等学校の早期設置を要望します。

- (2) 国に対して、学校施設の環境改善及び老朽化対策の関連予算の拡充を強く働きかけるよう要望します。また、国庫補助金の採択について、当初予算区分における計画的な採択の実施を働きかけるよう要望します。
- (3) 学校給食管理業務の充実及び食育の推進を図るため、基準を大きく上回る食数を調理している「つくばすこやか給食センター豊里」に4名、「つくばほがらか給食センター谷田部」に5名、令和7年度に供用開始した「桜学校給食センター」に3名の栄養教諭の配置を要望します。
- (4) 教員の働き方改革を推進し、児童生徒と向き合う時間を確保することにより、質の高い教育を持続的に実施できるよう、以下のとおり要望します。
 - ① 市独自で配置する学校サポーターに対する県独自の補助制度の確立
 - ② 茨城県が配置するスクールカウンセラーの人員拡充
 - ③ 茨城県が派遣するスクールソーシャルワーカーの配置型への転換及び市独自の配置に対する補助制度の創設

4 多文化共生の推進

外国人材にとって魅力ある国際都市として認識され、研究員をはじめ、より多くの優秀な外国人材が活躍する場となるためには、その子女を対象とした国際的な教育環境の確保等が必要不可欠であることから、平成24年度より県・市がそれぞれつくばインターナシヨ

ナルスクールに補助金を交付し、支援しています。優れた外国人材の誘引を図る上で、全国的にも数少ないバカロレアの認定校であるつくばインターナショナルスクールの存在は重要と考えており、つくば市において来年度も支援を継続する方針であることから、県の支援についても継続することを要望します。

IV 市民のために科学技術をいかすまち

1 スタートアップを支援する仕組みづくり

筑波研究学園都市の研究・事業シーズを活かし、より多くのスタートアップの創出、誘致及び成長促進を図るため、スタートアップ支援に当たり茨城県関係部署との連携強化と支援制度の中長期的な継続を要望します。

2 地域の脱炭素化

- (1) つくば市では、令和4年（2022年）2月にゼロカーボンシティ宣言を行い、令和5年（2023年）11月には環境省から脱炭素先行地域に選定されるなど、再生可能エネルギーを利用した脱炭素化及び災害レジリエンスの強化を推進しています。そのため、「茨城県自立・分散型エネルギー設備導入促進事業費補助金」を活用し、太陽光発電システムと連携した蓄電池の設置者へ補助金を交付していますが、申請件数は、年々増加しています。今後、つくば市では、人口増加による新築住宅等の購入数増加とあわせ、既存住宅においても再生可能エネルギー関連機器の需要増加が見込まれることから「茨城県自立・分散型エネルギー設備導入促進事業費補助金」の予算拡充を要望します。

あわせて、当市の脱炭素先行地域等における、他地域への脱炭素ドミノの横展開に関する取組に対して、御支援を賜りますようお願いいたします。

- (2) 平成28年2月、茨城県及び現ENEOS(株)との間で「移動式水素ステ

ーションを活用した“水素社会”の実現に向けた普及啓発事業に取り組むための覚書」を締結し、つくば市に移動式水素ステーションが設置されましたが、令和7年3月をもって廃止されたことを受け、開所当初から当市が実施していたFCV購入費補助事業も終了せざるを得ない状況となりました。今後は、茨城県の「いばらき水素戦略」に基づき、県・つくば市・事業者等の連携による安定的な水素供給体制の構築が実現され、当市及び周辺地域FCVユーザーの利便性確保や脱炭素化の推進につながるよう、市内水素ステーションの設置に向けた働きかけを行っていただくことを要望します。